

## 高齢者の意思を尊重した看護とは

第18回老年看護学会学術集会に参加してきました。「高齢者の意思を尊重したケア」が大きなトピックスでした。「**高齢者の意思**」について、事例を用いて考えてみましょう。

**事例:** Aさん80歳代の男性。パーキンソン病(ヤール重症度分類 )と認知症の進行で食べられなくなり、寝たきり状態、つい先日胃瘻造設しました。Aさんは嚥下訓練をしても「どうせ死ぬんだから」と話し食べようとしません。最近では看護師に対して「あんたのせいでこうなったんだ」と胃瘻造設したことについて攻撃的に非難してきます。しかし、数分経つと自分が話したことはすっかり忘れていきます。

### 考えるポイント:

- 「死にたい」というから本当に死にたいのか?
- 「食べたくない」というのは本心か?
- 「あんたのせいでこうなった」は本心か?
- 胃瘻造設する際に、どのような支援があったか?
- Aさんの意思とは? 等等...



### アセスメントのポイント:

- 身体的な状況
- 心理的な状況
- 治療上の変化
- Aさんの価値観
- Aさんの苦痛 等

### 認知症の高齢者の場合、「死にたい」と言っていることが真のニーズだとは限りません

- Aさんは抗パーキンソン病薬のコントロールをし始めたばかり、薬剤により攻撃性が増しているかもしれない
- 身体状況が辛く、食べるための力が無いのかもしれない
- 妻より、Aさんは長年パーキンソン病で、病気であっても自分で自分の事をできていることに誇りをもっていたとのこと

**Aさんへの支援と変化:** Aさんに胃瘻から注入を始めると、少しずつ栄養状態と脱水状態が改善し、「水ようかんが食べたい」等の食欲がわいてきた。また、薬剤コントロールがついたこと、リハビリテーションの効果もあり、できることが増えた。さらに看護師はAさんが「辛いこと」を受け止め、Aさんが「できる事」を肯定的に返したり、心理的な支援も行うことで、「家に帰りたい」という欲求が生まれてきた。

攻撃性は無くなり、「ありがとう」と看護師や妻に感謝の意を告げる事も・自宅退院可能に

図書紹介: 胃瘻について、高齢者の意思決定について、考える本です。参考に...



担当: 老人看護専門看護師 岩崎友理子(3AB)

# CNS・CNからの情報



事例研究をやってみよう！ 研究の意義とは？？①

小児看護専門看護師：市原真穂 (PHS787)

## 研究意義を明確にするために



前回は、食事の拒否が強い3歳のA君への、経口摂取にむけた援助方法を考えました。

取り組みを始める前に、対象者に不要な労力をかけないように、何がどこまで明らかになっているか、確かめておくことが重要ですね。そのための具体的な方法を考えましょう。



・まずは文献検討を！！

図書室にいきましょう。

図書室司書さんに、「文献検索がしたいです♡」と相談しましょう。

今回は、「食事の拒否、幼児」というキーワードで文献を探してみました。

日本看護協会のホームページで提供されている「最新看護索引web」を用いて検索したところ、次の2件がヒットしました。

・松田美由紀. 摂食拒否した離乳期の神経難病患児に対する看護介入方法; 食環境に焦点をあてて. 日本看護学会論文集 小児看護43, p.7-10, 2013

・藤井恵未他. 摂食拒否がみられる障害児の経管栄養から経口摂取への移行援助; 応用行動分析的手法を用いた摂食援助を試みて. 日本看護学会論文集 小児看護42, p.21-24, 2012

上記の2つの論文を熟読してみましょう。

次回へ続く

困ったな～

食べてくれない・・・

## 偏食

への対応に困っていませんか？

原因は、「味」ではない場合も多い

ママが食事で困っていること  
ワースト5

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1) 遊び食い   | 45.4% |
| 2) 偏食     | 34.0% |
| 3) むら食い   | 29.2% |
| 4) 時間がかかる | 24.5% |
| 5) よくかまない | 20.3% |

☑ その子にとって **難しい食形態** を与えていませんか？

・繊維の多い野菜や肉、きざみ食など、食べにくいものは嫌われます。健常児でも子供の咀嚼能力は、6歳で大人の40%、10歳で大人の75%とされています。

☑ **嫌いな食感** のものを受け入れられないのでは？

・発達に障害のあるお子さんの中には、感覚に敏感で特定の食感しか受け入れられない場合があります。好む食感を中心にしながら徐々に受け入れの幅を広げます。

厚生労働省雇用均等・児童家庭局「平成17年度乳幼児栄養調査報告」より

摂食・嚥下障害看護認定看護師：青木ゆかり (外来PHS783)



## 脳卒中の方への退院指導で、健康管理のポイントは！

【生活習慣】

【服薬】

【定期受診】

【リハビリテーション】

【社会参加】

【社会福祉制度】

【再発時対応】

・塩分・脂肪分控えめの食事、運動、節酒。

・内服を継続 (抗血栓薬 = 抗血小板薬や抗凝固薬

高血圧・糖尿病・脂質異常症治療薬)

・かかりつけ医をもち、必要に応じて、専門医に受診。

・機能回復・低下の予防、社会復帰のために継続。

・社会との絆を持つ (外出、旅行、患者会などへの参加、復職)

・介護保険、身体障害の認定など、社会福祉制度をうまく利用。

・症状を覚えて、疑ったら、すぐに救急車呼びましょう。

(社)日本脳卒中協会：「脳卒中克服十か条」より

脳卒中リハビリテーション 看護認定看護師：越野明子 (2A)

